

2019 年卒  
Vol.09

## 8 月 1 日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2019 学生モニター調査結果 (2018 年 8 月発行)

選考解禁から 2 カ月が経過し、2019 年卒業予定者の就職採用戦線は着実に収束に向かっている。8 月 1 日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は 85.5% と高い水準だったことがわかった。ただし、前年同期実績には届かず、後半戦を迎え内定率が停滞している様子が表れている。

### 1. 8 月 1 日現在の内定状況

- 内定率は 85.5%。7 月調査 (81.1%) からの伸びは小幅にとどまる
- 前年同期実績 (88.2%) を 2.7 ポイント下回る
- 就職活動を終了したのは全体の 78.5%。継続者は 2 割強

### 2. 就職活動継続学生の今後の動向

- 選考中の企業は平均 1.4 社。受験予定を合わせた持ち駒企業は 2.8 社
- 今後エントリーを予定している学生の平均予定社数は 5.7 社
- 新たな企業を探す手段は「就職情報サイト」83.9%、「求人票」34.5%の順
- 「志望の見直しはしない」が増加傾向 (34.4%→38.1%)

### 3. 就職決定企業で働きたいと思ったタイミング (当初志望度別)

- 第一志望の企業に決めた学生は「インターンシップ参加時」が最多 (30.1%)
- 第一志望群や、当初は志望していなかった企業に決めた学生は、「選考試験を重ねていく中で徐々に」が最多 (それぞれ 36.6%、44.0%)

### 4. 就職決定企業のインターンシップ参加経験

- 就職決定企業のインターンシップへの参加経験者は 36.8%。前年 (28.4%) より増加
- 参加時期は「2 月」が最多。「8 月」が次点で、早期に接点を持った企業に決める傾向も

### 5. 就職活動方針の変化 (3 月調査との比較)

- 就活開始当初の方針と、実際の進め方とで乖離。当初の方針よりも絞って活動
- 「気になる企業はとりあえずエントリー」「セミナーにたくさん参加」は予定より減少
- 「事前に業界を絞ってから活動」「学業を優先して負担のない範囲で活動」は増加

### 6. 就職活動の難易度 (活動状況別)

- 活動終了学生は「やさしい」が「厳しい」を上回る
- 継続学生は「厳しい」が過半数。とりわけ未内定者で厳しさが際立つ

## 調査概要

調査対象 : 2019 年 3 月に卒業予定の大学 4 年生 (理系は大学院修士課程 2 年生含む)  
回答者数 : 1,033 人 (文系男子 313 人、文系女子 300 人、理系男子 280 人、理系女子 140 人)  
調査方法 : インターネット調査法  
調査期間 : 2018 年 8 月 1 日~6 日  
サンプリング : キャリタス就活 2019 学生モニター (2016 年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

## 1. 8月1日現在の内定状況

8月1日現在の学生モニターの内定率は85.5%。企業の採用意欲の強さを反映し、高い数字をマークした。ただし、先月調査(7月1日現在)からの伸びは小さく、前年同期実績(88.2%)を2.7ポイント下回った。内定率は3月から6月まで前年同期を上回り、早期化が目立っていたが、7月に前年を下回り(2.1ポイント減)、今回さらに差が開いた格好だ。

売り手市場が続く中、今年は企業を絞り込んで活動する学生が目立った。人気企業に絞りすぎて思うような結果を出せなかった学生が、納得のいく就職先を見つけられずに取り残されている印象だ。なお、8月時点の一人あたりのエントリー社数の平均は32.1社で、前年同期(40.1社)より2割減っている。

### 8月1日現在の内定状況

\*「内定」には、内々定を含む

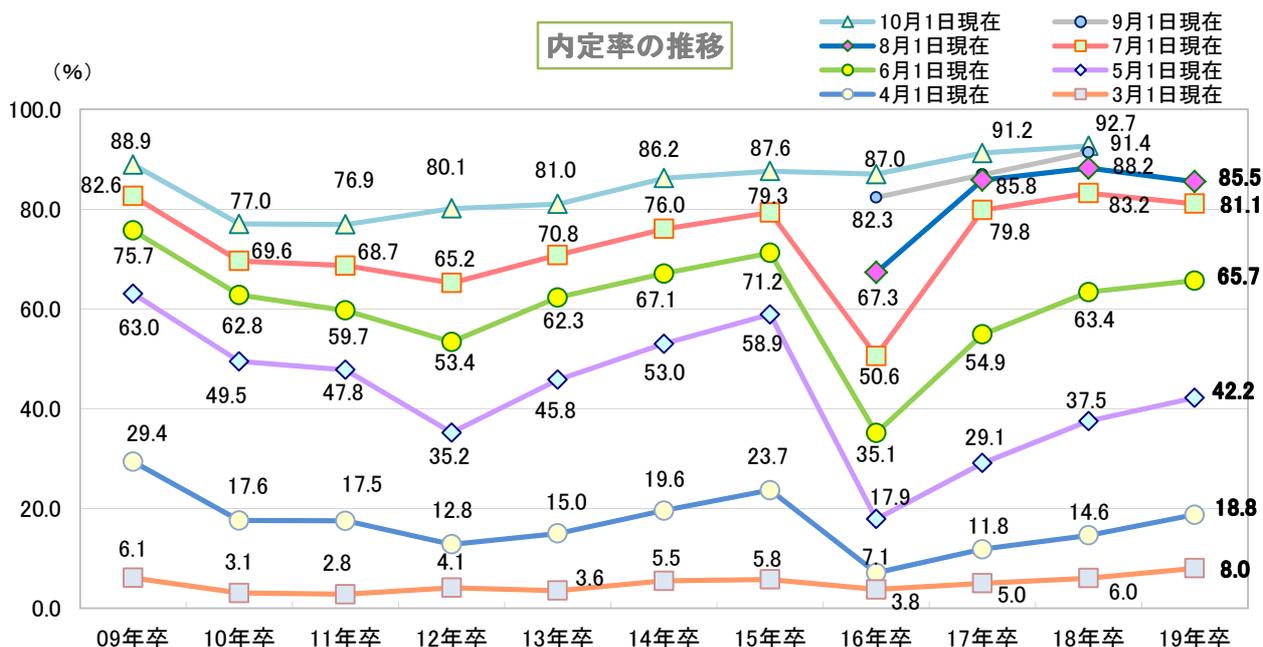
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		85.5 (88.2)	83.7 (84.7)	86.3 (90.7)	86.4 (87.7)	85.7 (92.6)
内定なし		14.5 (11.8)	16.3 (15.3)	13.7 (9.3)	13.6 (12.3)	14.3 (7.4)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	88.3 (87.1)	86.3 (82.2)	88.4 (85.0)	89.7 (92.3)	90.0 (92.7)
	活動は終了したが複数内定保持	2.5 (4.0)	2.7 (5.8)	3.1 (4.3)	2.1 (3.0)	1.7 (1.3)
	進学などの理由で就職活動を中止	1.0 (0.5)	0.8 (0.6)	0.8 (0.3)	1.7 (0.4)	0.8 (0.7)
	就職活動継続	8.2 (8.4)	10.3 (11.3)	7.7 (10.3)	6.6 (4.4)	7.5 (5.3)

(%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.3 (2.3)	2.3 (2.4)	2.3 (2.2)	2.2 (2.2)	2.2 (2.1)

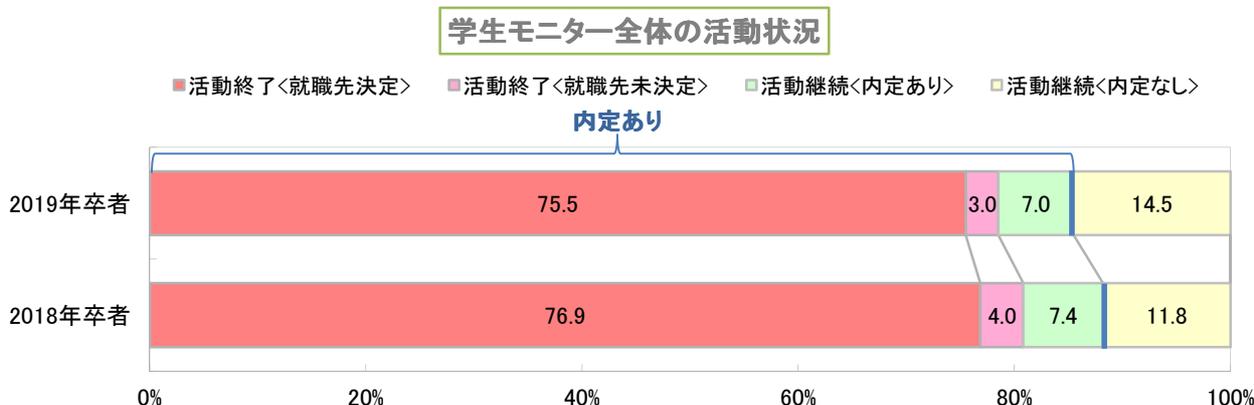
(社)

※ ( )内は前年(8月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~19卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

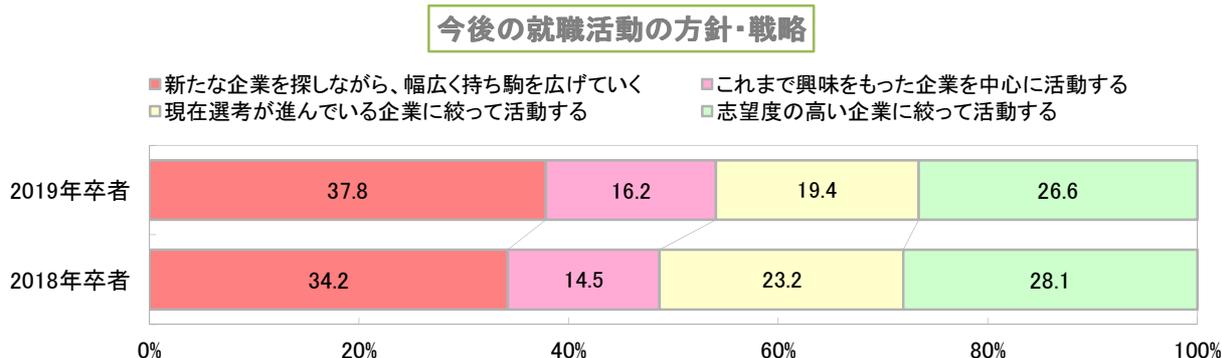
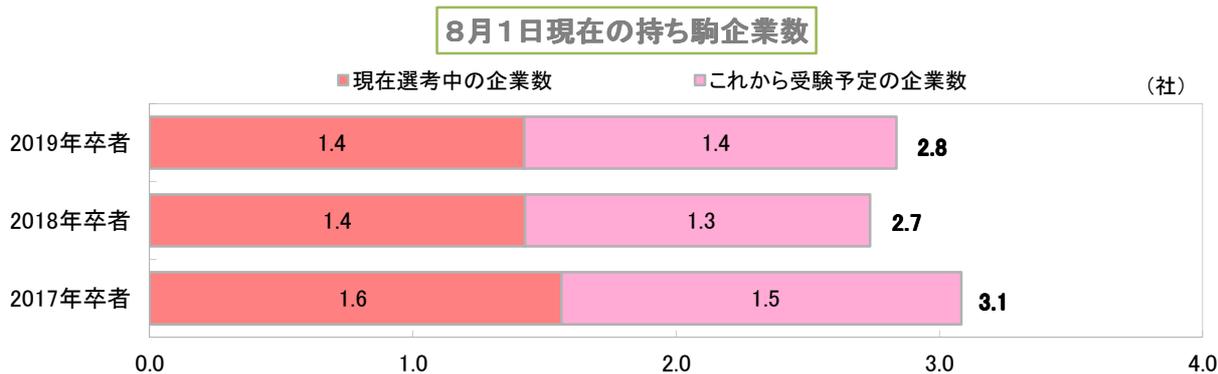
調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は75.5%。複数内定を保留しているなど未決定である者(3.0%)を合わせると、終了者は78.5%。一方、活動継続者は「内定あり」(7.0%)、「内定なし」(14.5%)を合わせて2割強(21.5%)。内定率が下がったことで前年同期より継続者の割合は増えた。就職戦線は、大手企業の秋採用や中堅中小企業を主軸に第2ラウンドへと移っている。



## 2. 就職活動継続学生の今後の動向

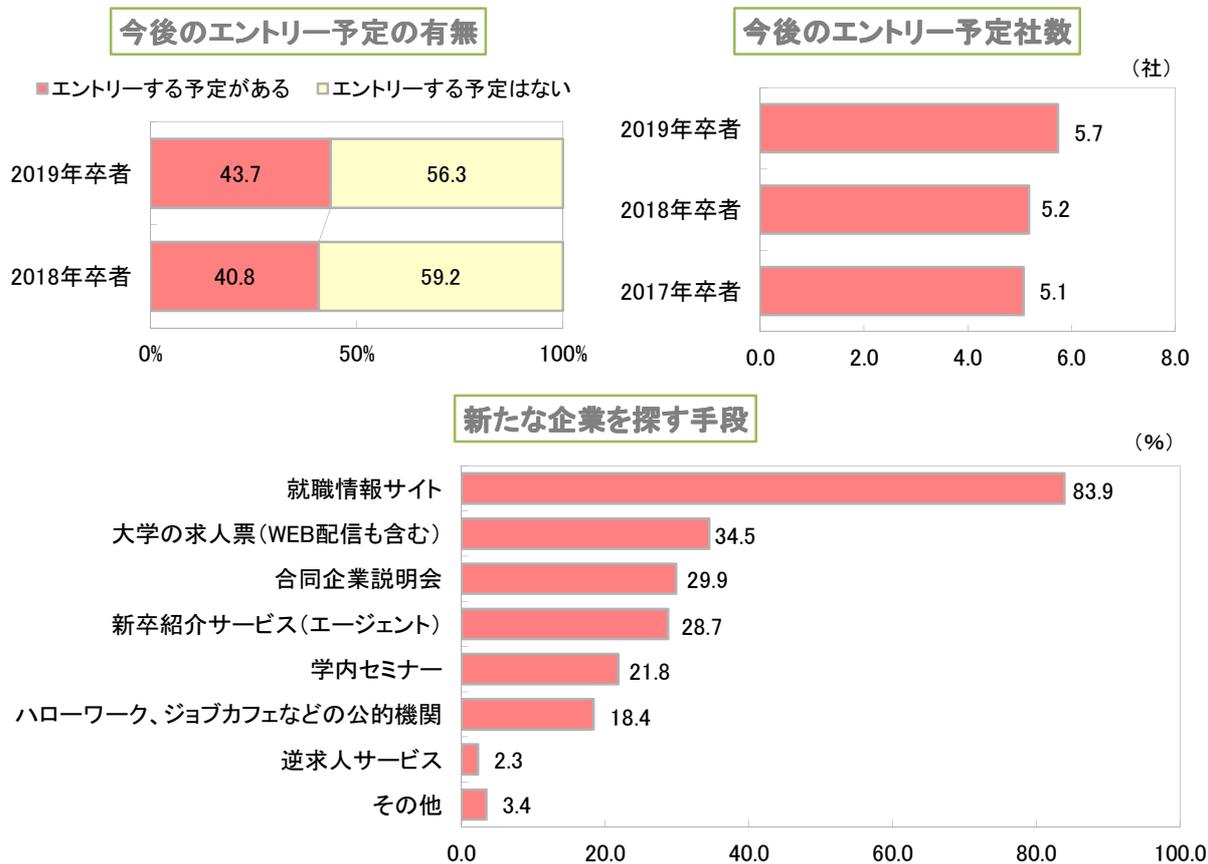
内定保持者も含め、就職活動を継続している学生(モニター全体の21.5%)の、現在選考中の企業数は平均1.4社。これから受験予定の企業数1.4社を足し合わせた、いわゆる「持ち駒」企業数は2.8社。前年同期(2.7社)をやや上回る。

今後の方針・戦略は「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」が最も多く、割合も前年より増している(34.2%→37.8%)。現状の持ち駒では内定はおぼつかない、と感じている学生が少なくないようだ。

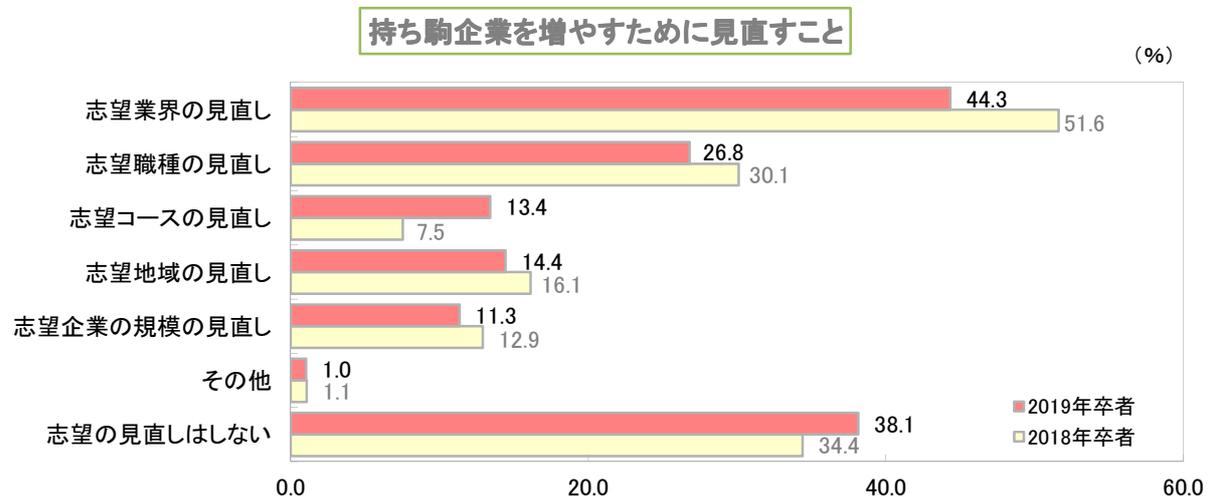


今後、新たな企業へのエントリーを予定しているのは継続学生の 43.7%で、予定している社数の平均は 5.7 社。前年調査に比べて割合も社数も増加しており、意欲的に持ち駒を増やそうとしていることがここからも読み取れる。

新たな企業を探す手段 (ツール) は「就職情報サイト」が 8 割を超えて圧倒的に高く (83.9%)、後半戦も企業探しのメインツールとして、引き続き利用されていることがわかる。



今後見直すことを尋ねると、「志望業界の見直し」が今年も最も多いが (44.3%)、前年より 7.3 ポイント減っている。一方で、「見直しはしない」が増加 (34.4%→38.1%)。最初の志望にとらわれ、うまく方向転換できない学生が増えているとすると、今後の内定率の伸びは鈍いだろう。



### 3. 就職決定企業で働きたいと思ったタイミング (当初志望度別)

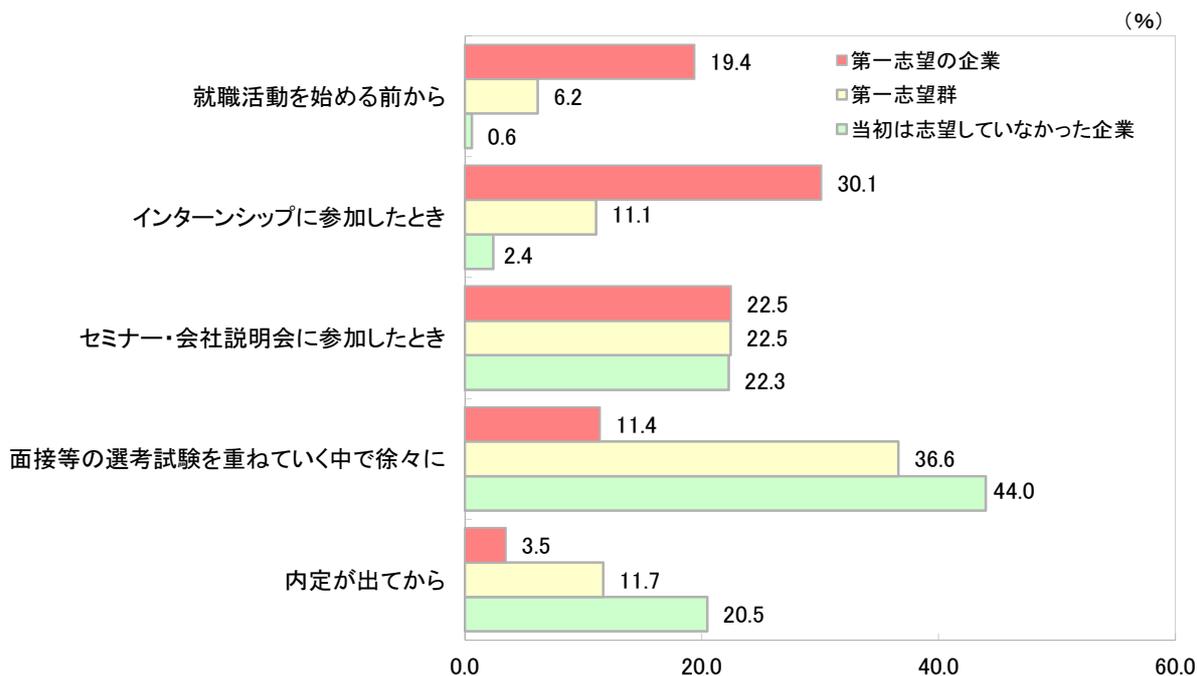
就職先を決定して就職活動を終了した学生 (モニター全体の 75.5%) に、その企業で働きたいと具体的に思ったタイミングを尋ね、就職活動開始当初志望度との関係を調べてみた。

第一志望の企業に決めた学生が、この企業で働きたいと思ったタイミングは「インターンシップに参加したとき」が最も多く、30.1%。「就職活動を始める前から」も約 2 割 (19.4%) に上り、かなり早い段階からその企業で働きたいと考えていたことがわかる。

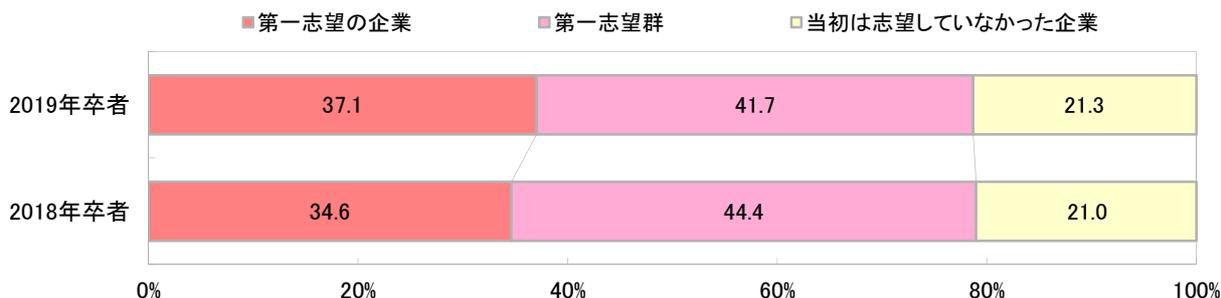
一方、「第一志望ではないが入りたい企業 (第一志望群)」「当初は志望していなかった企業」に決めた学生では、「選考試験を重ねていく中で徐々に」がそれぞれ 4 割前後で最も多い (36.6%、44.0%)。次に多いのは、「セミナー・会社説明会に参加したとき」でいずれも約 2 割 (22.5%、22.3%)。実際に採用担当者などと接点をもったことで志望度が上がったと考えられる。また、当初は志望していなかった企業に決めた学生は、「内定が出てから」という回答も 2 割あり (20.5%)、内定後に改めて企業研究をすることで入社意思を固める学生が比較的多いようだ。

なお、決定企業の当初の志望状況の分布は、「第一志望の企業」という回答が 37.1%、「第一志望ではないが入りたい企業」は 41.7% で、「当初は志望していなかった企業」が 21.3%。

就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング (当初志望度別)



就職決定企業の就職活動開始当初の志望状況

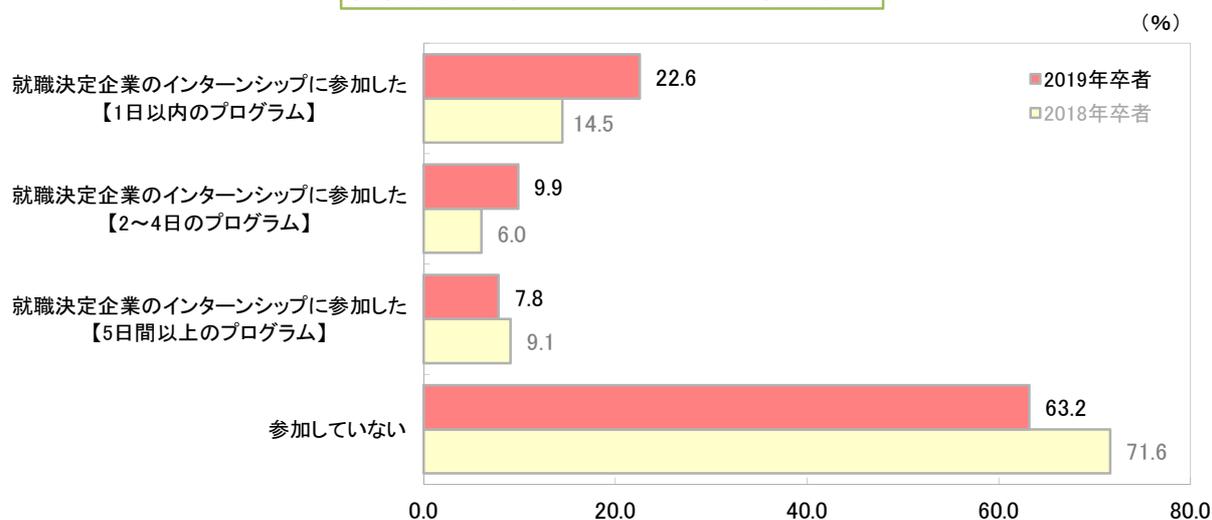


#### 4. 就職決定企業のインターンシップ参加経験

就職先として決定した企業の、インターンシップ参加経験を尋ねた。「1日以内のプログラム」に参加したという回答が22.6%と、前年(14.5%)から大きく増加しており、「2~4日のプログラム」も増えた(6.0%→9.9%)。一方で、就職決定企業のインターンに参加していないという学生は減少した(71.6%→63.2%)。

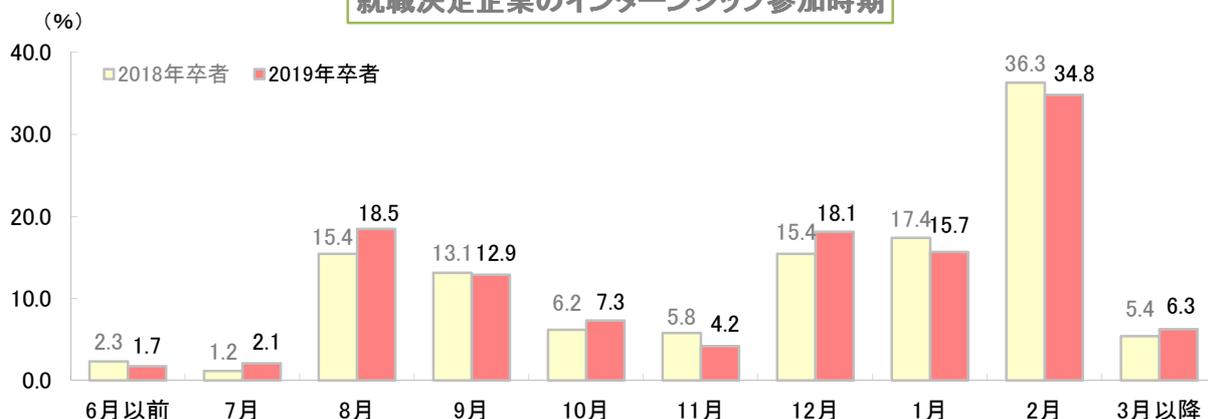
就職活動が本格化する前にインターンシップに参加する学生自体が増加しているが、就職先決定者の3人に1人以上(36.8%)が、その企業のインターン参加経験を有しているというのは、かなり高い割合ではないだろうか。前年と比べても、インターンシップの影響が強まったと言えそうだ。

就職決定企業のインターンシップ参加状況



就職決定企業のインターンシップ参加時期を複数回答で尋ね、前年と比較してみた。両年とも「2月」が最も多く、就活解禁直前のインターン参加を機に就職先として志望度を高める学生が多いことが読み取れる。また、2019卒者は「8月」のポイントが増えており(15.4%→18.5%)、早い時期に接点を持った企業に決める傾向も見られる。なお、複数月を選択した学生は14.6%に上り、2回以上参加した後には選考を受け、就職決定に至った学生が一定数いたことがわかる。

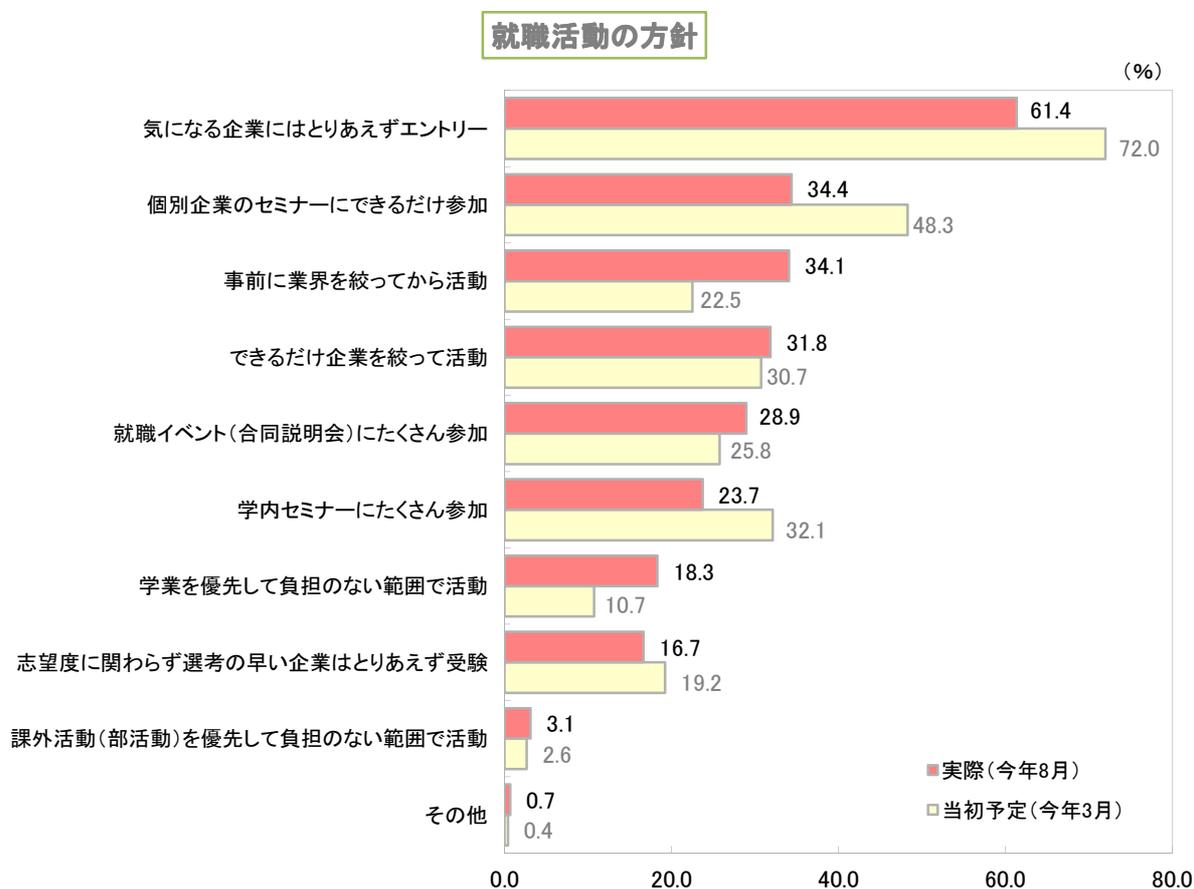
就職決定企業のインターンシップ参加時期



## 5. 就職活動方針の変化 (3 月調査との比較)

モニター学生全員に、就職活動をどのような方針で進めてきたかを尋ね、今年3月に調査した当初予定と比較した。最も多かったのは、どちらも「気になる企業にはとりあえずエントリー」だが、前回72.0%→今回61.4%と、10.6ポイント下がった。また、「個別企業のセミナーにできるだけ参加」は13.9ポイント減少 (48.3%→34.4%)、「学内セミナーにたくさん参加」は8.4ポイント減少した (32.1%→23.7%)。

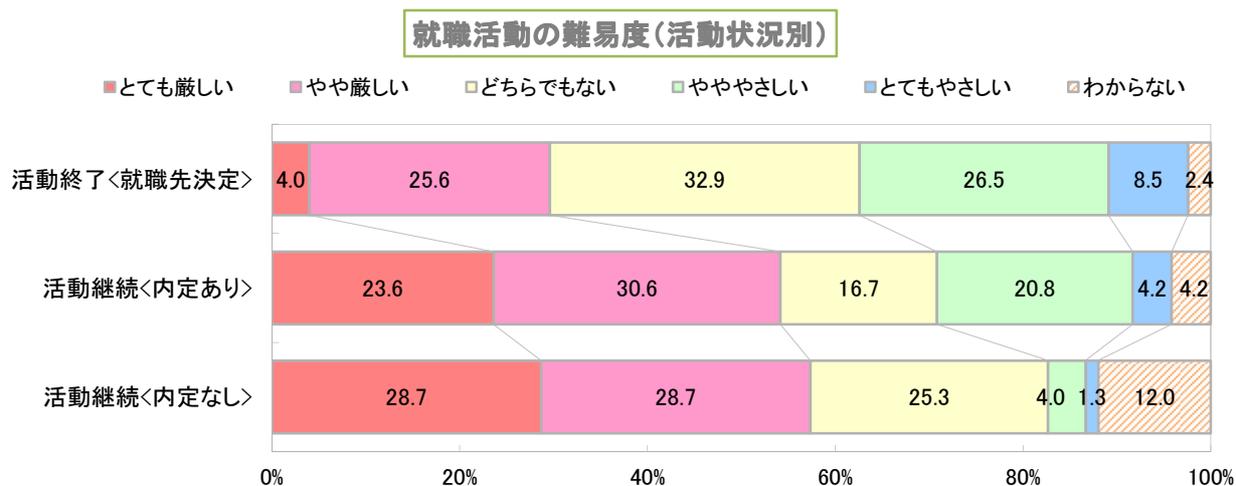
逆に、「事前に業界を絞ってから活動」は11.6ポイント増加 (22.5%→34.1%)、「学業を優先して負担のない範囲で」が7.6ポイント増加しており (10.7%→18.3%)、当初の予定よりも実際は絞って活動した傾向が見られる。3月以降のスケジュールが過密だったことや、早い時期から順調に選考が進んでいったことなどから、思ったほど多くの企業を見ることなく就職活動を進めた学生が多かったと解釈できる。



- 思いの外、すんなりと終わった。 <理系男子>
- 最初業界を絞りすぎ、15社程度しかエントリーせず、その結果5月中旬には持ち駒がほぼゼロになってしまい、慌ててそれまで受けていなかった業界もエントリーしました。 <文系男子>
- 本当に少しでも、興味を持った企業の説明会にはとりあえず参加してたくさんの企業を知ったことがとても良かったと感じる。 <文系女子>
- あまりにも短期決戦であると感じた。企業も人材確保のために必死であるのは分かるが、十分な情報と吟味がないまま就職先を決めてしまった人も多いのではないか。 <理系男子>

## 6. 就職活動の難易度 (活動状況別)

モニター学生全員に自身の就職活動の難易度を尋ね、内定有無など就活の状況別に集計してみた。活動終了者では3人に1人以上(計35.0%)が「やさしい」と振り返り、「厳しい」(計29.6%)を上回っている。これに対し、就職活動を継続している学生は、内定有無にかかわらず「厳しい」との回答が半数を超えている。特に、調査時点で内定を得ていない学生は「厳しい」6割に迫り(計57.4%)、「やさしい」が1割未満にとどまるなど(計5.3%)、厳しさが際立っている。就職活動を継続している学生からは、事前の準備不足や自身の見立ての甘さを痛感する声が多く挙がった。



### ■活動終了学生の声

- 周りも比較的好い企業に決まる学生が多く、終わってみると時代に恵まれていたと思う。 <文系男子>
- しっかり準備して望めば、就活は楽勝だと思います！ <文系女子>
- 就職氷河期の人の話を聞いていると、景気が後押ししてくれる環境の中で就活ができて良かったと思った。 <文系男子>
- 「早いもの勝ち」という印象を強く受けた。 <理系男子>
- 売り手市場の今は能力よりも人柄で採用を決めている企業も多いように感じます。私は資格などあまり持っていないだったので、とても助かりました。笑顔と受け答えさえしっかりしていれば内定は勝ち取れると思います！ <文系女子>
- 就活開始時と業界も職種も異なる会社に決まった。最初はまったく志望していなかった会社であるから、人生なにが起こるか分からないなあという気分。 <理系女子>

### ■活動継続学生の声

- 売り手市場と言われている中で、高をくくっていると本当に苦労します。 <文系男子>
- 業界を絞りすぎてしまった。 <文系女子>
- 思っていた以上に内定がもらえない。 <理系男子>
- 早めに自己分析をして、自分の興味があること、ないことをはっきりさせておくべきだと思った。 <文系女子>
- 行きたいと思える企業が残ってない。 <文系男子>
- 興味のある企業がなかなか見つからない。 <理系女子>
- 8月に入って夏採用の選考を受けているが、周りは殆ど終わっているし、しかも20卒の子たちが活動し始めている状況なので、苦戦しているとしか表現できない。 <文系女子>